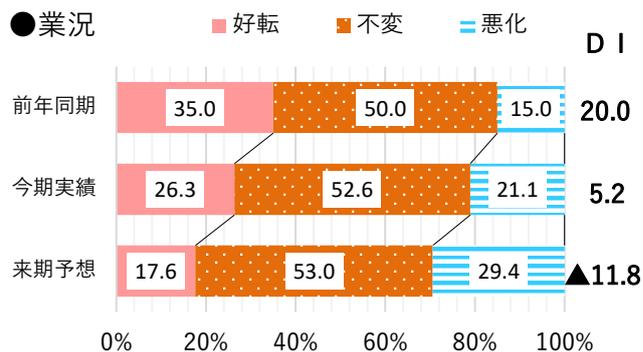


サービス業

業況、売上、採算

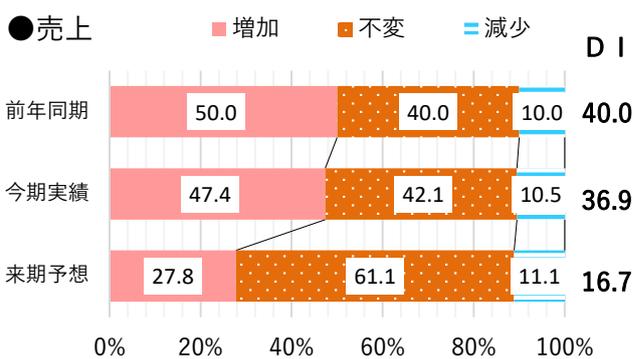
今期（2024.10～12）の業況判断DIは5.2で、前年同期(2023.10～12)と比べ14.8ポイント低下しました。

来期（2025.1～3）は、業況がマイナスに転じると予想しています。



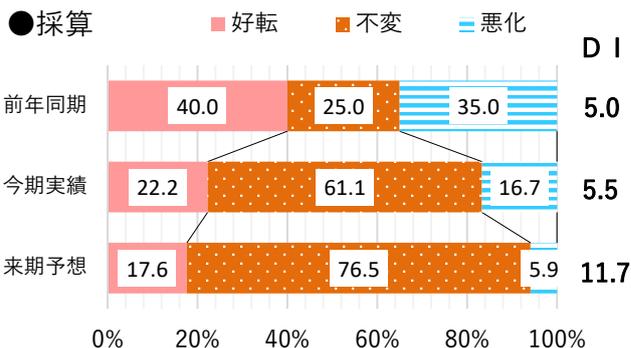
今期の売上高DIは36.9で、前年同期と比べ3.1ポイント低下しました。

来期は、売上の増加傾向が弱まると予想しています。

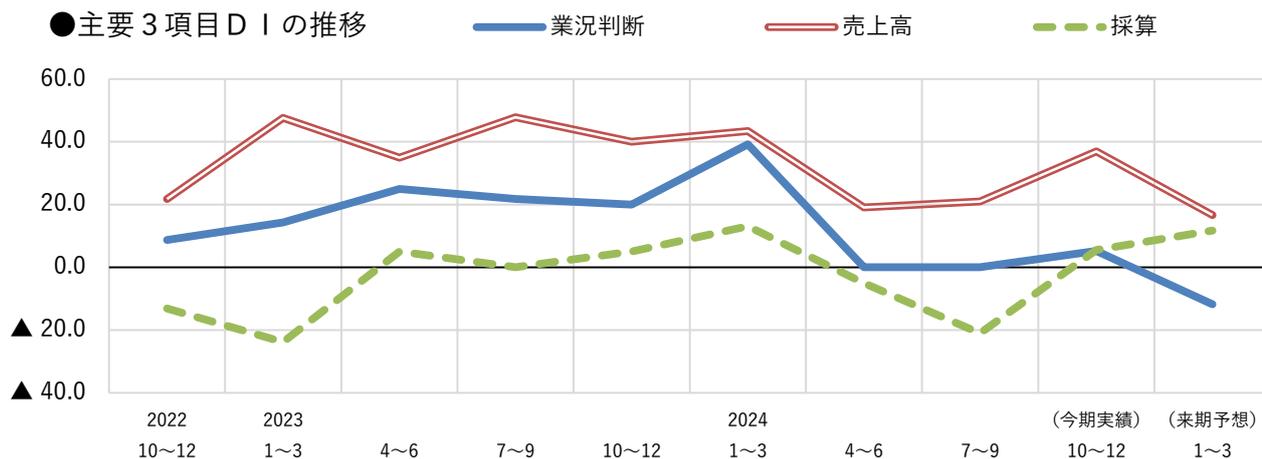


今期の採算DIは5.5で、前年同期と比べ0.5ポイント上昇しました。

来期は、採算の好転傾向が続くと予想しています。



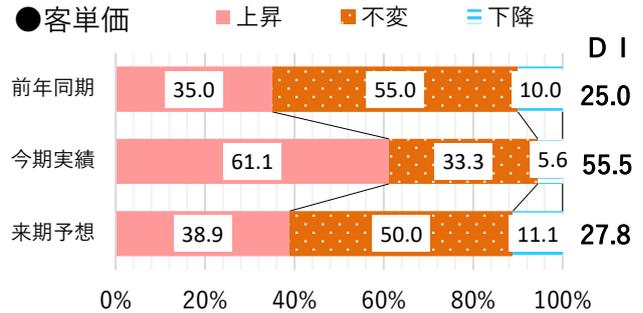
●主要3項目DIの推移



客単価、利用客数、仕入単価

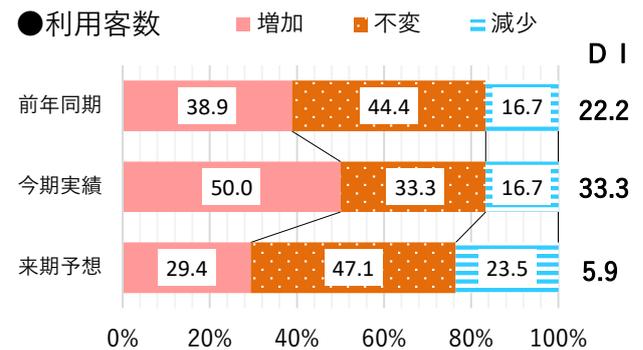
今期の客単価DIは55.5で、前年同期と比べ30.5ポイントと大幅に上昇しました。

来期は、客単価の上昇傾向が弱まると予想しています。



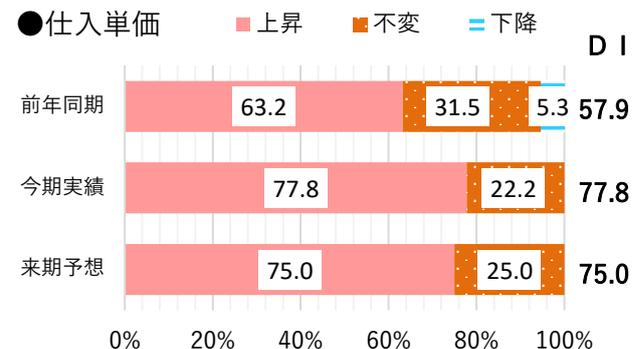
今期の利用客数DIは33.3で、前年同期と比べ11.1ポイント上昇しました。

来期は、利用客数の増加傾向が弱まると予想しています。



今期の仕入単価DIは77.8で、前年同期と比べ19.9ポイント上昇しました。

来期は、仕入単価の上昇傾向が続くと予想しています。



従業員、今期の雇用状況

今期の従業員数DIは5.3で、前年同期と比べ4.7ポイント低下しました。

来期は、従業員数がマイナスに転じると予想しています。



今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業はなく、適正であると回答した企業の割合は73.7%、不足していると回答した企業の割合は26.3%でした。



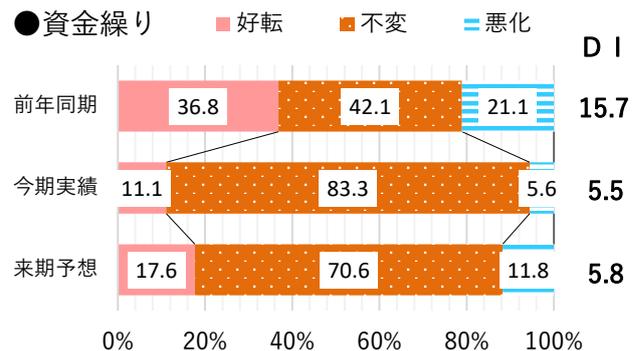
従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、充足している」という回答で、52.6%を占めました。回答全体では26.3%の企業で従業員が不足しています。

今期従業員数	今期の雇用状況	回答数
増加した	過剰	0
	適正	3
	不足	0
不変だった	過剰	0
	適正	10
	不足	4
減少した	過剰	0
	適正	1
	不足	1

資金繰り、設備投資

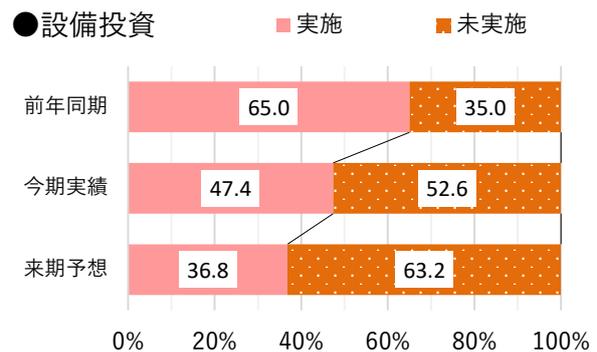
今期の資金繰りDIは5.5で、前年同期と10.2ポイント低下しました。

来期は、資金繰りのほぼ横ばいを予想しています。



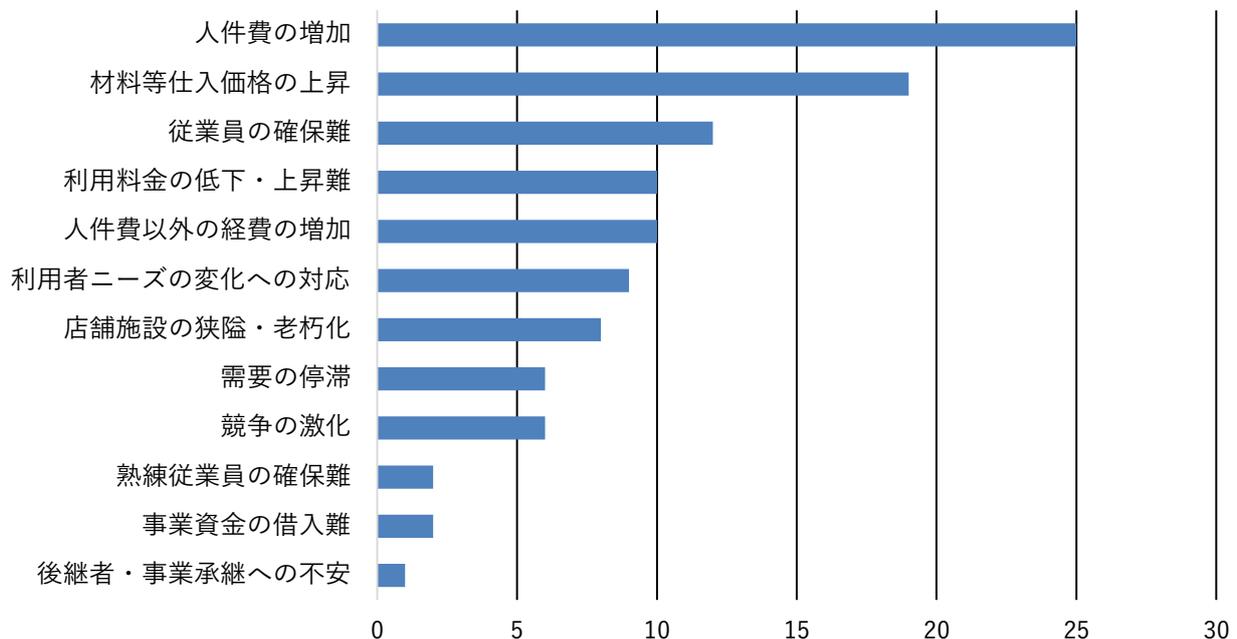
設備投資を実施した企業の割合は47.4%で、前年同期と比べ17.6%減少しました。投資内容は、1位が「車両運搬具」、2位が「建物」、「サービス設備」、「OA機器」（同位）の順です。

来期に設備投資を計画している企業の割合は36.8%で、減少を予想しています。



経営上の問題点

今期直面している経営上の問題点は、1位が「人件費の増加」、2位が「材料等仕入価格の上昇」、3位が「従業員の確保難」の順です。



企業の声

[今期の業況について]

- 店舗の改装で客数は増加したと思われる。仕入価格はどんどん上がる一方で、販売価格も引き上げなければ追いつかない状況にある。人材はたまたま通っていた飲食店の店長が退職することとなったため、声をかけたところ入社してくれたので幸運だった。今後はタイミー等も使わなければ厳しいかもしれない。賃金の引き上げは良いと思うが、年収103万円の壁を123万円まで引き上げてもほぼ無意味だと思う。稼げる人はどんどん稼ぎ、消費してもらい、国は消費税で稼ぐべきだ。(飲食店)
- 立地条件等の影響で、毎年冬は客足が減少する。仕入単価は上昇傾向にある。(飲食店)
- 最低賃金の上昇により業況が悪化した。(ビルメンテナンス)
- 小樽市内のみを商圈とした場合、売上は減少となるかもしれない。余市や倶知安等幅広く対応したい。(不動産代理・仲介業)
- 仕入価格は上昇しており、それに伴い売上は減少した。(写真業)
- 観光客の来店が増えはじめた。年末のため、メニューをプラスする方が増えて、客単価が上昇した。仕入価格は上昇傾向にある。賃金を引き上げた。(美容業)
- 若干の価格転嫁により、客数の減少を乗り越えられた。(教養・技能教授業)
- 客数増加により増収増益となったが、仕入単価の上昇により利益率の伸びが鈍化した。(スポーツ施設)
- 売上は増加した。仕入価格は変わらなかった。(情報処理・提供サービス業)

[来期の業況について]

- とにかく国民は稼いで消費し、国全体で産業の売上を伸ばすべき。これが国益になるのは間違いない。円安が続く限り、インバウンドはまだ増えるだろう。人材確保は重要なので、扶養控除は撤廃し、働ける人に働いてもらい、国民の消費を増やすべき。そうしなければ貧しい人は減らないだろう。(飲食店)
- 雪あかりの路などのイベントが予定されているため、外国や本州からの観光客、バスツアーの会社から問い合わせがあり、売上は若干の増加を見込む。(飲食店)

- 最低賃金の上昇に合わせ、取引先との値上交渉を行う。販売単価は上げられるが、仕様の削減により売上が減少傾向にある。（ビルメンテナンス）
- 政府による石油元売会社への補助金が終了する恐れがある。（ビルメンテナンス）
- 賃貸は横ばい、売買は多少の増加を期待する。（不動産代理・仲介業）
- 物価の高騰が続く中で、売上の増加は見込めない。（写真業）
- 12月の来店が例年よりも多かったため、その分1月の利用が減少すると思われる。2～3月の利用客は徐々に回復すると思う。（美容業）
- 価格転嫁が原材料価格の高騰に追い付かないと思われる。（教養・技能教授業）
- 今期と同程度の利用者数を見込む。業況は今期と大きく変わらないと思われる。（スポーツ施設）
- 売上見込額は増加した。仕入価格は不変を見込む。（情報処理・提供サービス業）